

平成 13 年 7 月 5 日

「教育改革に関する日本工学アカデミー会長談話」

社団法人 日本工学アカデミー
会長 永野 健

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日本工学アカデミーは、わが国の指導的工学系研究者・技術者が約 600 名自主的に集い、工学および科学技術の進歩を通じて社会の発展に寄与すべく活発に活動しております。

特に、その使命の中の重要な柱として、教育問題を重視して活動しており、昨年 11 月には「国立大学の独立法人化への提言」をまとめ、公表いたしました。

さてご高承のように、昨今、わが国における構造改革計画の一環として、教育改革につき検討が加えられ、諸施策が実行されようとしております。

わがアカデミーも、その推移に重大な関心を抱き見守ってまいりましたが、わが国の将来の発展は一に人の育成にかかっている、とのわれわれの基本認識からみれば、いくつかの憂慮すべき点が見受けられます。

そこで、本年4月以降有志が集い、アカデミー内に下記の「教育改革」作業部会を設け議論し、その結果をこのたび会長談話としてまとめました。今後の政策立案および実施時等において、ご考慮くだされば幸いです。

敬具

記

(社) 日本工学アカデミー 「教育改革」作業部会

柏木 寛(部会長) 小野田 武、川崎 雅弘、隈部 英一、三井 恒夫 (50 音順)

以上

平成 13 年 7 月 5 日

教育改革について・我が国の構造改革に向けて

社団法人 日本工学アカデミー会長談話

日本工学アカデミーは、豊かな国づくりに向けて、次世代を担う「志」に満ちた、「人間」が育ってくれることに、大きな期待を寄せてきました。その期待が大きいゆえに、今日我が国の教育の荒廃を深く憂慮しています。

1979 年の共通一次試験の導入に伴う偏差値問題に引き続き、1990 年代に入って受験生を確保するため、各大学の入学試験に際し、入試科目数を削減したことにより、受験科目以外は、真面目に勉強しなくなり、高校教育が歪められていると受け止めています。

2002 年より始まる完全学校週 5 日制の下で、「ゆとり」と「特色」のある教育を行うことにより、「自ら考える力」の育成を目的として掲げておりますが、その理念が実現されることを切に願っています。

しかしながら、我々は、初等・中等教育における科目配当時間の削減と学習内容の減少により学力が低下し、ひいては国力の低下をもたらすのではないかと強い懸念を抱いております。

また国民の初等・中等教育の責任は、主に国・地方自治体にありますが、大学等の高等教育については学生の 8 割が私立で教育を受けている実態をふまえ、私学助成の強化と規制の緩和を希望しています。

我々は多様化の流れの中で、以下に述べる 3 点について配慮されるよう望んでいます。

1. 教育自体は長期的視点で論じられる必要があります。

経済の市場原理を至上のものとするあまり、教育までそれに基づき論じようとしている今日の状況は、正常であるとは思われません。また今支配的な意見は、必要な「人材」を必要な数だけ調達するという考えですが、将来を託す次世代の人々は、「材」ではなく、「人間」なのです。偏差値で選ぶことにより得られるのは、材料としての材であるかも知れませんが、我々が先人を引き継ぎ次世代の人々に引き渡そうと考えている対象の「人間」とは異なるのではないのでしょうか。人間の啓発には、20 年余の年月を要します。教育の目的は、「人間啓発」にあります。従って、長期的視点から論じることを要望します。

また、小・中・高等学校、ならびに大学の教職員は、その道で、プロないしはエキスパートであるとの自覚と自信を持って教育に携わることを強く希望します。こうした視点から、小学校教員養成系学部が文科系と位置付けられ、数学や理科の十分な習得が要求されていない点はぜひ改善するよう望みます。

2. 学習指導要領の役割変更にとまなう要望。

学習指導要領の役割を、「下限」の提示とするならば、大学を中核とする高等教育側は、将来教養として必要となる基礎学力について明確に要求すべきと考えます。入学試験時に示すとすれば、試験科目数をある程度多くする必要があります。これによって初めて「ゆとり教育」と呼ばれるものが明らかになり、具体的な対応策が生まれるものと考えます。あわせて、どのような卒業生を世に送り出そうと考えているかも明らかにされるよう希望します。

一方、採用する側(企業等)も、構造改革を視野に入れ、長期的視野からどういう人物を望んでいるかを示す必要があります。

3. 「新教育課程に対する数学・物理・化学系諸学会の見解」を支持致します。

すでに発表されている数学・物理・化学系 8 学会の、(1)算数・数学、理科の時間を減らすことは極力避けていただきたい。(2)個性を生かす教育には多様性を認め、規制を緩和する。(3)、「総合学習」に科学的視点を取り入れる。(4)、科学の十分な素養、専門知識を持った教員の養成に力を入れる。等の見解を注視し、理解を深めるよう希望します。

現在、科学技術は人々の生活・生命の維持に不可欠なものとなっており、我々の社会環境を支えている科学技術に基づく各種のシステムに対する十分な理解が必要であることは勿論、さらに将来に向けて改善を加えていく能力も必要であります。折角ゆとりある教育をしますので、その余力は将来の科学技術の進む方向の予察に役立つよう使ってもらいたいと思います。より良い社会環境を築くためには、より優れた科学技術の推進に携わる後継者としての、志ある次世代の若者を育てるための教育が必要であります。

さらに、経済・社会に深く関る、工学的成果の利用に際しては、技術のみならず倫理的見地からも正当であるという判断力の養成が必要であります。何故なら、技術自身は中立であり、利用者、使用者の倫理、道徳によりその評価が決まるのですから。

以上